



## ⑨ 予測・分析～⑩ 計画の決定

作成された計画案について、比較検討のため効果や環境への影響を予測・分析します。

### ●計画案の絞り込み

作成された計画案について比較検討ができるように、設定された目標に対する効果の検討や環境への影響について概略の予測・分析を行います。また、事業費や用地買収などの社会経済的影響や技術的な課題などもあわせて分析する必要があります。以上の各計画案における分析結果をふまえ、総合的に比較・評価を行い、計画案を絞り込みます。このようにして作成された分析結果や計画案の絞り込みのプロセスは、計画の決定を行う前に公表して、地域の意見等を集めることが望まれます。

### ●絞り込まれた計画案の予測・分析

自然再生事業といえども環境になんらかの人為的改変を加えるものであるため、環境への影響は皆無ではありません。例えば、河川の蛇行復元が希少種の生育する止水域を改変することになる場合もあります。したがって、絞り込まれた計画案については、いくつかの環境要素を決めて影響の分析（アセスメント）を行います。このためには、計画案が持つインパクトとレスポンスを整理し、必要に応じて数値計算等を用いて、効果の確実性と環境へのマイナス面の影響を適切に把握する必要があります。

また、目標の設定の段階で、治水・利水面を考慮して実現可能性をおおよそ検討していますが、この段階で計画案が治水や河道の維持管理に対してどのような影響を及ぼすものであるかも詳しく分析します。

### ●計画案の修正・合意形成

予測・分析の結果から、必要に応じて計画案を修正します。また、計画案を修正しても目標の達成が困難あるいは環境への影響が著しい、治水・利水上の要求を満たせないなどと判断された場合には、目標を再設定せざるを得ないケースもありえます。また、再生することが優先するのか、現存する環境への影響を回避するのが優先するのかという点で、意見が対立することがあるかもしれません。このような点については地域の意見を集め、十分な合意形成を行う必要があります。

### ●計画の不確実性と仮説の設定・検証

決定された計画案についての予測・分析は、必ずなんらかの不確実性を含んでいます。つまり計画自体が仮説であると言えます。そこでそのことを明記した上で、段階的施工を行って自然の応答をみながら管理を行っていく姿勢が重要です。また、この応答を確実に捉えるためにも、適切なモニタリングを実施して、仮説を検証していくことが重要です。

そこで、計画案については、後に予測結果との比較・評価ができるような内容のモニタリング計画（施工前、中、後などに適宜実施）も盛り込みます。また、モニタリング結果が改善等に確実に反映できるように、評価及び改善案への反映の手順も予め定めてあることが望まれます。